

愛荘町交流・行政調査報告

議員会会長 杉本益三

平成21年度の議会行政調査は議員14名の参加のもと、11月16、18日にかけて実施しました。

合併後、愛荘町と那珂川町として平成18年10月に新たに姉妹都市・災害相互応援協定を結びました愛荘町議会の皆さんが昨年6月下旬に当町に来町いただいたことから、両町の交流をより深めることと、愛荘町の議会及び行政の先進事例を研修させていただき、当町のまちづくりの参考とするため、那珂川町議会として愛荘町を訪問しました。

愛荘町は当町と同様、平成の市町村合併により旧馬頭町とアーチェリー競技の縁で交流のあった旧秦荘町と愛知川町の2町が合併して誕生した町です。人口約2万人と当町とほぼ同じですが、地形は比較的平坦で、高速道路や私鉄が通っており、隣接市のベットタウンにもなっています。町総面積も旧小川町よりも小さく人口密度的にも市街地とい

う感じを受けました。

特に、今回の交流・調査においては、行政への民意の反映、協働のまちづくり、子育て支援等について研修させていただき、また、優れた図書館運営についても勉強させていただきましたので、その一端をご報告します。



実り多い研修となった交流会

愛荘町100人委員会

愛荘町では町長の発案により、協働のまちづくりの手始めとして「100人委

員会」を設置し、町民の自主的な参画によって住民と行政の協働のまちづくりを進めています。課題設定から町への提言まで、委員会の運営を委員が自主的に行っており、提言は総合計画や自治基本条例の制定等に反映されるなど、まちづくりの活力源となっています。

子育て支援センター

当町と同様、町総合計画重点プロジェクトを位置づけ、その一つとして子育てのまち愛荘町「あいつ子」を掲げています。

子育て支援センターの設置については、平成20年4月から準備を始め、平成21年10月から本格稼働が始まったばかりの施設であり、住民アンケートや公募による検討委員会設置など、計画段階から住民参加による検討が行われてきました。同センターは、平日のほか、毎月第2、第3土曜日も開館しており、子育て世代の親のニーズに応じた交流の場の提供や各種講座の開催、育児相談等が行われています。

愛荘町では年間約200人の新生児が誕生しており、

支援センター開設以来、月700人から800人の親子が利用しているそうです。また、外国人居住者も多く、総人口の約5%を占めている関係で、ポルトガル語の国際交流員も配置しています。

愛知川図書館

全国各自治体からの視察が絶えない優秀な図書館として知られています。利用者の目線にたって配置された館内には、蔵書のほかに、新聞、チラシ、食堂メニュー、求人誌なども資料として分類されて活用されています。

蔵書に関しても大学や研究者などからの寄贈も多く、図書館の管理運営が高く評価されていることが伺えました。

そのほか、図書館事業として住民に情報提供を呼びかけた地域マップづくり等も行われており、当町においても図書館関係者は先進事例として研修し、取り入れるべき点が多くあると感じました。

京都市歴史資料館

愛荘町での研修のあと、

最終日には京都市歴史資料館を視察しました。

京都には歴史的に貴重な資料や文化財が数多く、その保存（複製、写本、補修など）や利用（展示）方法、経年劣化などに対する研究がされています。

研究成果の一部が展示されていることから、その活用等について調査研修をしてきました。

終りに、調査にあたりまして、お世話になりました愛荘町の皆さん、各施設の皆さんにお礼を申し上げます。議会行政調査の報告といたします。



愛知川図書館にて